三六　昭和七年史

（一）寒稽古

本年度寒稽古皆勤者左の如し。

五段　五島三雄

三段　沖革作、五島勇雄

二段　富澤康吉、今川敏夫、佐久間知三、新堀昇三

初段　中村仙一郎、相羽良次郎、大江完、武林由雄、峯岸猛、清川晃、阿部泰介、永田定之、武藤剛

一級　山内恒夫、箱田玄輔、熊谷喜徳、小西和夫、古屋幸三、乳井健一、大澤勇

二級　伊奈丑男、羽鳥忠久、大澤克夫、磯邊達郎、西川力治

三級　横田作彌、笹間猶興、秋山正、山本正三、安藤英一

四級　猪谷甫、峯岸宏、松内則明、岡島龍吾、山田房夫、金澤壯二

五級　近藤正、早乙女爲男、内海通勝、榊正雄、森岡二郎、堤正夫、縣稔、伊坂四郎人、木下三八郎、大澤達夫、須賀明數、品田義治

六級　谷德藏、立脇忠命、高橋正一、峯岸豐雄、秋山辰馬、堀越總一、栗本豐夫、柴田實、加藤祐二、土井實、富樫一也、神浦壽太、永濱庄次、玄田權七郎

七級　笠原慶太郎、深浦澄夫、田中勉、窪田羊三、杉本健造、加藤信三、山村忠彦、有川健夫、吉川昂、小山増雄、中山秀雄、田川茂、海東致道

八級　木村恭三、森茂、大關和雄、鈴木康吉、中村雄次、榎本孝一、湯地貞俊、原寛、宇田達、田中廉藏、海東次郎

九級　三木利雄、石川三郎、有田平治

甲組　内海勝正、乳井龍二、長田龜雄、若山逸郎、河内政信、加藤利雄

乙組　茂木秀郎、久繁善則、内海啓勝

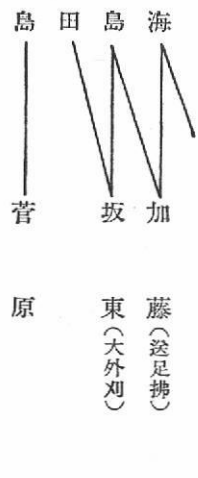
丙組　田甫達郎、寺尾幸男

無級　加藤秋四郎　　合計　百〇五名

(二)　卒業生送別紅白勝負

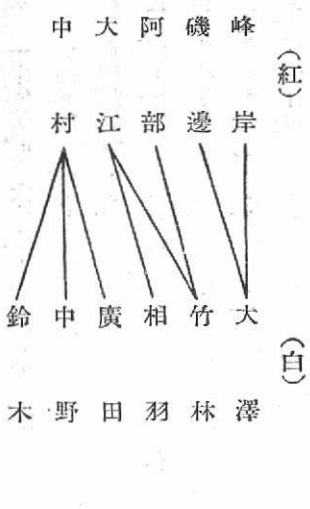
例年の如く二月十一日紀元節の佳辰を卜して擧行された。午前九時先づ幼年組並に成年組の紅白勝負に依て戰の幕は切つて落され、次に古式之形が飯塚師範と五島五段との間に演ぜられ、又兩軍に分れたる有段者の肉彈戰が催された。

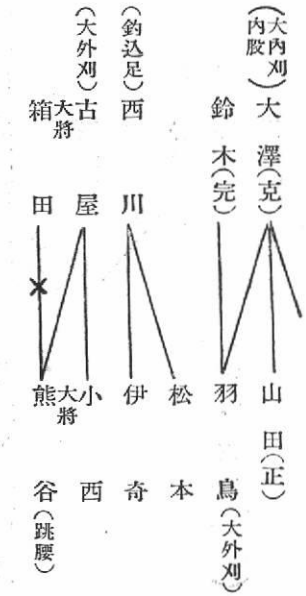
成年組紅白勝負

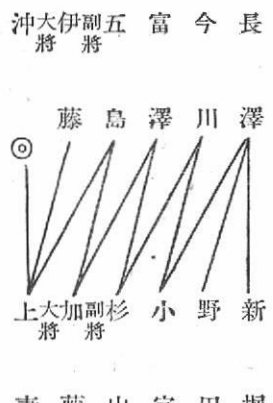


古式之形（飯塚師範五島五段）

有段者紅白勝負







右終りて柴田柔道部長より一場の訓話あり、續いて左記卒業生の五人掛があつた。

初段阿　部　相　羽
同　相　羽　同　中　村
二段永井定　同　大　江
〇〇〇〇〇　三段伊藤傑　〇〇〇〇〇
同　廣　田　同　廣　田　同　大　江
同　磯　邊　同　中　村　二段野　田
初段磯　邊　二段野　田　同　小　宗
初段相　羽

勝負終了後芝口太田屋にて送別宴を催す。當夜は柴田部長並に飯塚、中野兩師範、先輩側よりは吉武、塚本、山本、宮永、桐山、諸氏參列、現部員六十名と共に大に歡を盡し、午後十時大盛況裡に閉會した。

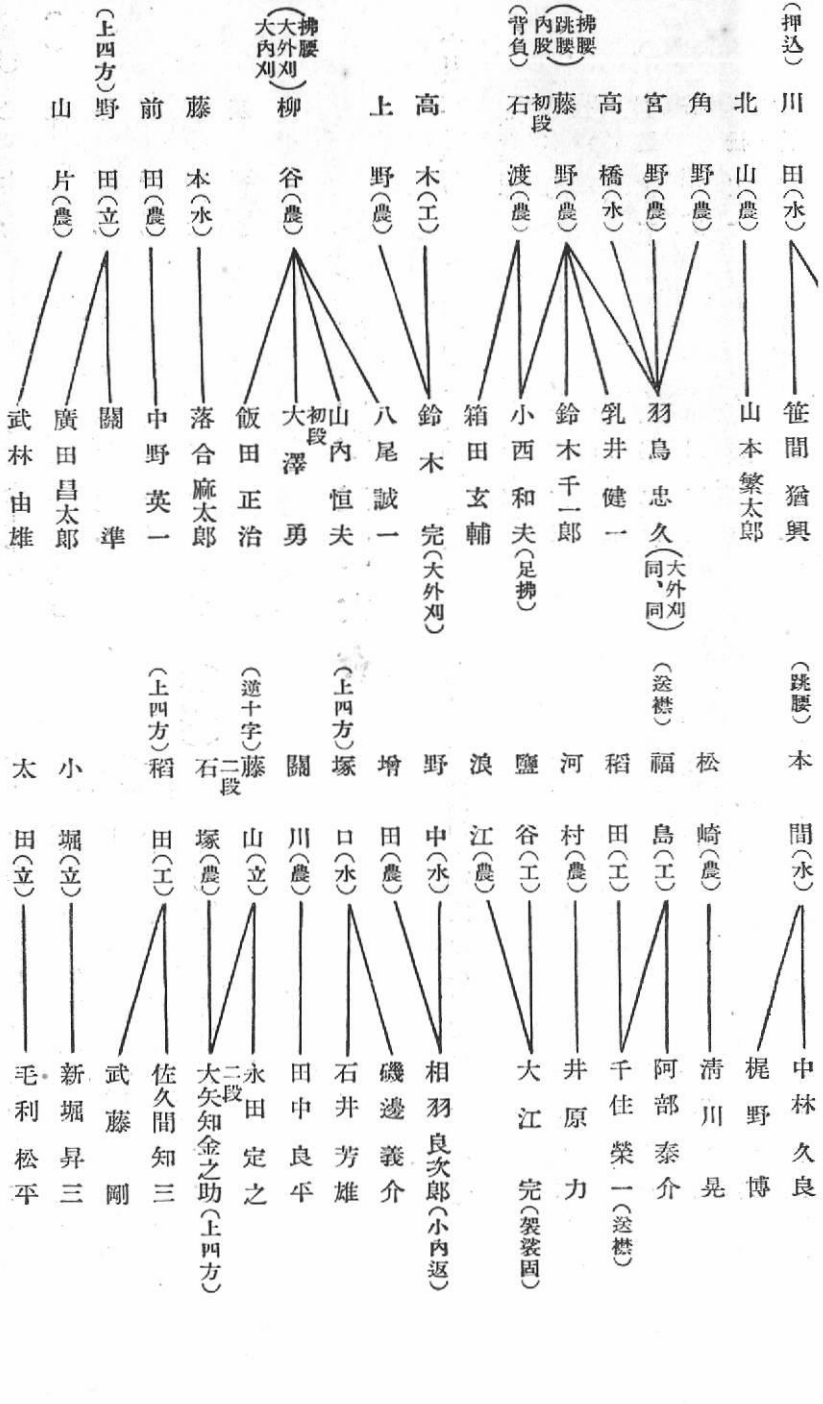
（三）第二十一回對四校聯合勝負

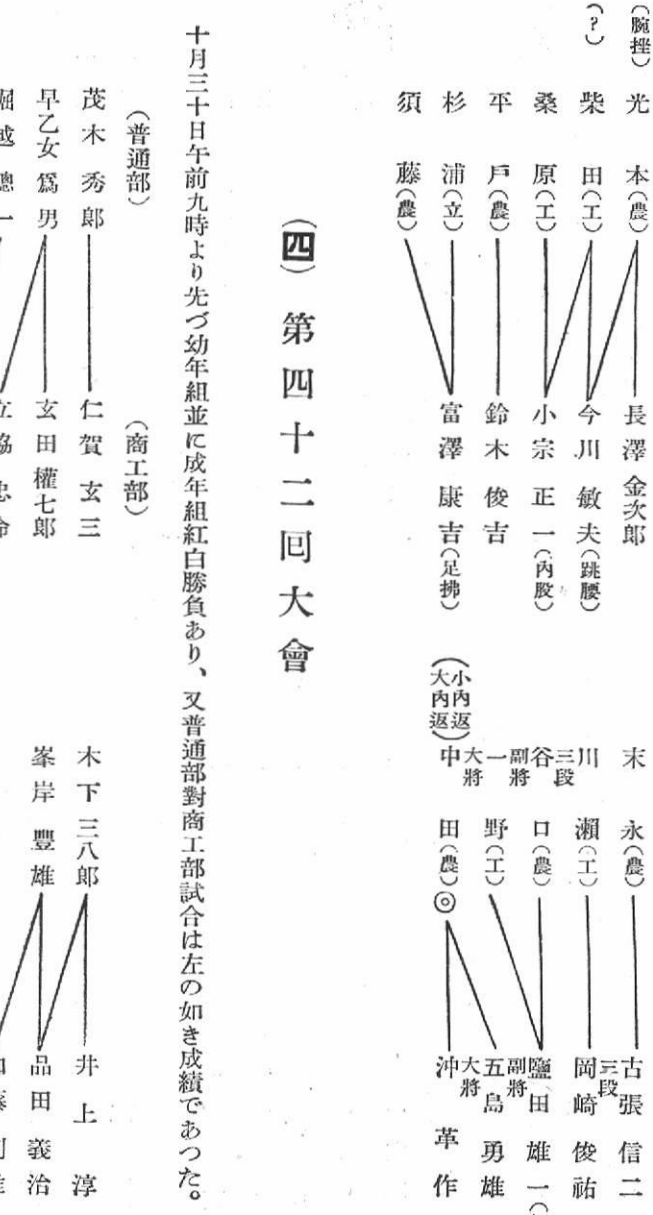
六月四日綱町道場に於て開催。久しく敗戰の苦杯を嘗めて來た聯合軍は、此の戰に於て塾方を破り、漸く積年の屈辱を晴らした。

（聯合軍）　（本　塾）

石　黒（農）　山　田　房　夫
（內股）桑　野（水）　飯　島　克　男
玉　木（立）　伊　奈　丑　男
稻　岡（農）　古　屋　幸　三（同、同）
（大外刈同）

有　働（水）
宮　澤（農）
（押込）梶　谷（農）
由　井（水）
奥　田（農）
伊　丹　正　治（同、同）
（押込同）


（押込）川田（水）
北山（農）
角野（農）
宮野（農）
高橋（水）
石渡（農）
高木（工）
上野（農）
柳谷（農）
藤本（水）
前田（農）
（上四方）野田（立）
山片（農）
武林由雄
廣田昌太郎
關準
中野英一
落合麻太郎
飯田正治
大澤勇
山内恒夫
八尾誠一
鈴木完（大外刈）
小西和夫（足拂）
箱田玄輔
笹間猶興
山本繁太郎
羽鳥忠久（大外刈同、同）
乳井健一
鈴木千一郎
（跳腰）本間（水）
松崎（農）
福島（工）
稻田（工）
村（農）
鹽谷（工）
浪江（農）
野中（水）
增田（農）
口（水）
川（農）
山（立）
塚（農）
（上四方）稻田（工）
小堀（立）
太田（立）
梶野博
清川晃
阿部泰介
千住榮一（送襟）
井原力
大江完（袈裟固）
相羽良次郎（小内返）
磯邊義介
石井芳雄
田中良平
永田定之
佐久間知三
武藤剛
新堀昇三
毛利松平
中林久良
（送襟）河
（上四方）塚
關
（逆十字）藤
二段
石
二段
大矢知金之助（上四方）



（四）第四十二回大會

十月三十日午前九時より先づ幼年組並に成年組紅白勝負あり、又普通部對商工部試合は左の如き成績であつた。

（普通部）　（商工部）

茂木秀郎——仁賀玄三
早乙女爲男——玄田權七郎
堀越總一——立脇忠命
谷德藏——和田正夫
高橋正一——久繁善則
大澤達夫——加藤祐二

木下三八郎——井上淳
峯岸豐雄——品田義治
加藤利雄
堤正夫——山田房夫
石川禧夫——山田正典
近藤正——横田作彌

松内則明 ― 磯邊達郎
飯島克男 ― 副將 松本政雄
副將 岡島龍吾
大將 飯田武二 ― ○ 大將 小西和夫

次に部員對外來者の一本勝負が行はれた。

有級者の部

(學習)(一) ○ 伊藤 守谷
○(學習)(二) 長崎 内海
(明學)(三) × 本田 山田
(明學)(四) × 佐伯 菅原
○(至剛)(五) 小島 猪谷
(市一)(六) × 船津 秋山

形

投之形 五島勇雄 佐久間知三
固之形 富澤忠三 富澤康吉
極之形 上妻利男 沖革作

有段者の部

(初段)

(農大)(七) ○ 上野仁 山本繁太郎(大外刈)
(三田)(八) ○ 石井登龜男 箱田玄輔(跳腰)
(三田)(九) × 村上貞雄 清川晃
(三田)(一〇) ○ 森起郎 古屋幸三(大内刈)
(中大)(一一) × 鈴木 羽鳥忠久
○(農大)(一二) 藤野明(大外刈) 落合麻太郎

○(三田)小田部誠治(大外刈)(一三)廣田昌太郎
○(農大)關川正登(絞)(一四)田中良平

(二段)

(農大)山高武志(一七)○大矢知金之助(跳巻)
(三田)幸有紀(一八)×毛利松平
○(中大)岩崎正男(跳腰)(一九)鈴木俊吉
○(國士)岡部(押込)(二〇)峯岸弘次

(三段)

○(早大)茄川政志(巴投)(二七)岡崎俊祐

(市一)河村保雄(一五)×千住榮一
(中大)榮(一六)○中村仙一郎(内股)

(早大)齋藤茂助(二一)○長澤金次郎(押込)
○(國士)加藤英治(内股)(二二)小宗正一
(中大)榎本保(二三)○今川敏夫(合業)
(早大)田澤文雄(二四)梅澤正治(足拂)

○(至剛)芹田倉藏(絞)(二五)野田
(國士)市川(二六)○富澤康吉(跳腰返)

(中大)石本次郎(二八)○五島勇雄(拂腰返)

(國士)長野正男(二九)○富田忠三(巴投)

當日は折惡しく都下の諸校に於ても大會の催しあり、隨つて高段者の外來試合者多からず、塾の首將格たる數名も戰ひの機なく、單に腕を撫するに過ぎなかつたのは遺憾であつた。

右終つて柴田部長の挨拶あり、それより山上大食堂に於て來賓及び試合者一同に晩餐を供し、食後飯塚師範の勝負評と訓話に次いで柴田部長の感想談あり、更に部長の指名に依りて交々起ちたる先輩佐野氏、大塚氏、並に飯塚茂氏等は懐舊談に花を咲かせ、最後に部長自ら昔の學生時代に若還へり、或は詩を吟じ、或は奇聲を發して滿場を洪笑せしめ、年と共に元氣益々旺なる所を見せた。

(五) 雜記

對四校聯合勝負中止と新決議

本塾對四校聯合軍試合は過去二十一回の長期に亙りて行はれ、其間我が柔道部は僅に二敗一引分の大々的好成績を殘して來たが、右は本年を以て打切りとし、明年よりリーグ戰を行ふことゝなり、六月關係諸校幹部の間に今後の試合に關して左の通り決議された。

一、從來繼續せる慶應義塾對四校聯合柔道試合は今年(第二十一回)を以て中止す。

一、本聯合試合に代り參加校の親睦を圖り、本試合の歷史を持續する爲め、明年度よりは六月第一土曜日慶應義塾道場に於て各校選手十名を以て(段級を合せる)リーグ戰を擧行し、終了後混合稽古並に親睦晩餐會を行ふ。

慶應義塾　沖　革作、加藤靖夫、上妻利男
東京工業大學　川瀨正一、高木勝盛
東京農業大學　須藤正夫、大多武夫、田中茂彦、石塚文七郎
水產講習所　吉津綱人、野中巖夫

進級一括

○一月二十六日月次勝負に於て進級したる者左の如し

二級へ　磯邊達郎、西川力治、八尾誠一、野島繼雄(編入)、渡邊　清(編入)

一級へ　小西和夫、乳井健一、古屋幸三

○二月の進級者

二級へ　笹間猶興

一級へ　羽鳥忠久、大克澤夫、鈴木　完、大澤　勇(編入)

○六月の進級者

二級へ　秋山　正、臼井　博(編入)、佐川藤太(編入)

一級へ　山本繁次郎

○九月の進級者

二級へ　本間太郎(編入)

○十月の進級者

二級へ　水之江公英、岡島龍吾、飯田武二

一級へ　伊丹正治

二段へ　中村仙一郎、大江　完

三段へ　長澤金次郎、梅澤正治、今川敏夫、富澤康吉

(六) 三田柔友會記事

聯合懇談會

一月十三日午後五時半より交詢社會議室に於て現部員を加へ聯合懇談會を催す。翌十四日より寒稽古開始さるゝを以て現部員側よりは幹事及び重立ちたる者のみ參集、先般來現部內に兎角の評あるを歎き、大に其責任を感じて辭表を提出中なりし幹部及び選手の處置に就て豫め協議をなし、其議に及ばずとの事に議決せるを以て、前記現部員を加へ、柴田部長より該辭表は返還されたる後、飯塚師範より諄々として學生たる現部員の本分並に其素行修養法等に就きて訓話あり、一同年の改まると共に本年こそは意義ある活躍をなさんことを誓ひて會を閉ぢ、食堂に入りて乾杯種々懇談せり。席上吉武委員長より部史編纂並に部員の座右の銘とも言ふべき大文字を道場に掲げ、以て動もすれば弛緩せんとする士氣を昂むる一助となさんとの勸議あり、無論異議なく之に賛し、之が具體案に就ては二月八日本會新年宴會席上に於て相談することとし、午後十時和氣靄々裡に散會せり。

新年會

二月八日午後五時半より慶應倶樂部別室に於て開催。恰も總選擧前のことゝて參會者非常に少く、稍々寂寥の感なきにしもあらざりしが、各自頗る打解けて歡談時の移るを忘るゝ程なりし。席上吉武委員長より義塾柔道部の士氣振興策として部史の編纂、及び會員によりて作製せる銘句を道場に掲載の事等を諮り、前者は佐野甚之助氏に委囑し、後者は會員有志の意見を求め、之を纏むることに意見の一致を見たるを以て、先づ其手始めとして銘句を募ることゝなれり。次で委員

會計の報告あり、一同新春の壽を述べて十時解散せり。

出席者（順序不同）

飯塚師範　金澤會長　中村愛作　大塚莊亮　柳井松祐　守谷正毅　近岡源三　野田市太郎　阿部大六　松本日出武　渡邊二男　吉武吉雄　塚本福治郎　岩崎清一郎　宮永金太郎　五島一男　阿部英兒　菅原浩の諸氏

總會

五月二十七日大阪ビル内レインボーグリルに於て本會總會開催、左の議案に就て協議したり。

一、本會規約一部變更の件
二、役員選擧の件
三、現部員士氣振興に關する件
（一）扁額字句及び揮毫の件
（二）部史編纂に關する件
（三）慶應義塾之記の掲載
（四）對校勝負決行の件

柔道部史（終）